

研究・調査報告書

報告書番号	担当
367	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
A meta-analysis on alcohol drinking and gastric cancer risk. 飲酒と胃がんリスクに関するメタアナリシス	
執筆者	
Tramacere I, Negri E, Pelucchi C, Bagnardi V, Rota M, Scotti L, Islami F, Corrao G, La Vecchia C, Boffetta P.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Oncol. 2012 Jan;23(1):28-36.	
キーワード	
飲酒、用量リスク関連、メタ分析、胃新生物、システマティックレビュー	
要 旨	
<p>背景： 飲酒と胃がんリスクとの関連性が存在するかどうかは未解決の問題である。飲酒と胃がんリスクとの関連を明確に定量化するために、利用可能なデータのメタアナリシスを行った。</p> <p>患者と方法： 2010年6月までにPubMed上に公開された論文を検索し、合計34,557例の胃癌症例を含む44件のケースコントロール研究と15件のコホート研究を同定した。推定値間の相関性を考慮し、ランダム効果モデルを用いてメタ分析の推定値を導出した。また、非線形ランダム効果メタ回帰モデルを用いた用量リスク分析を行った。</p> <p>結果： 非飲酒者と比較して、プールされた相対リスク(RR)は飲酒者で1.07 [95%信頼区間(CI) 1.01から1.13]、大量飲酒者(一日あたり≥ 4ドリンク類)で1.20 (95%CI 1.01から1.44)であった。プールされたリスク推定値は、胃非噴門部腺癌(大量飲酒者のRR=1.17、95%CI 0.78から1.75)において、噴門部腺癌(RR=0.99、0.67から1.47 95%CI)より明らかに高かった。用量リスクモデルにおいて、10g/日と50グラム/日の飲酒量増加のRRは、それぞれ0.95 (95%CI 0.91から0.99)・1.14 (95%CI 1.08から1.21)と推定された。</p> <p>結論： 本メタアナリシスにより、中等度飲酒と胃がんリスクとの関連性欠如が明確に示された。しかしながら、多量飲酒は胃がんリスクと正に関連していた。</p>	